

集計結果の概要

1 あなたご自身について

各属性の上位2位までは次の通り

属性	1位	2位
性別	「女性」53.6%	「男性」45.3%
年齢	「40歳代」24.0%	「50歳代」16.5%
世帯構成	「親子」52.2%	「夫婦のみ」22.7%
世帯に含む人	「65～74歳の方」23.8%	「小中学生」22.0%
職業	「会社員・公務員」42.9%	「パート・アルバイトなど」15.5%
住まい状況	「一戸建(持ち家)」66.5%	「集合住宅(賃貸)」19.0%
居住地区	「研究学園地区」29.1%	「TX沿線地区」18.3%

2 現在の住環境について

(1) 居住歴・市外居住経験

つくば市での居住歴は「30年以上」が36.7%で最も多く、「10年以上20年未満」が20.3%となっている。地区別にみると、居住歴が20年未満である割合は、研究学園地区で60%、TX沿線地区で80%を超えている。一方、研究学園地区とTX沿線地区以外の地区では、居住歴が20年以上の割合が高く、いずれも65%を超えている。

市外居住経験については、「ある」が85.3%、「ない」が14.4%と「ある」が多くなっている。地区別にみると、研究学園地区、TX沿線地区では、「ある」の割合が90%を超えている。

(2) 定住意向・住み心地

つくば市の定住意向は、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた割合が8割半ばとなっている。

つくば市の住み心地については、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が8割半ばとなっている。(図1)いずれの地区別、年齢別、住まい別でも「住みやすい/どちらかといえば住みやすい」が65%を超えている。

住みやすいと感じる主な理由は、「豊かな自然」が57.5%で最も多く、「日常生活が便利」が56.7%となっている。一方、住みにくいと感じる主な理由は、「交通の便が悪い」が83.3%で最も多く、「日常生活が不便」が52.5%となっている。

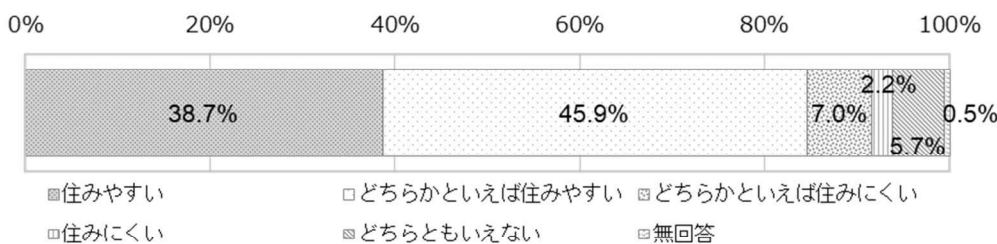


図1 つくば市の住み心地

(3) 景観

つくば市の景観については、「優れている」と「どちらかといえば優れている」を合わせた割合が7割半ばとなっている。(図2)

優れていると感じる景観としては、「筑波山・宝篋山」が54.9%で最も多く、「電線・電柱が地中化されている風景」が27.5%と続いている。



図2 つくば市の景観

(4) 市への愛着

つくば市への愛着については、「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた割合が約8割となっている。「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」では「愛着がある/どちらかといえば愛着がある」の割合が80%を超えている。一方、「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」では「どちらかといえば愛着がない/愛着がない」の割合が50%を超えている。

3 つくば市の現状やまちづくりへの取組について

(1) 現在の満足度

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合をみると、「病院・診療所などの医療機関」は77.0%で最も多く、次いで「住宅環境」が73.0%となっている。一方、「不満」と「どちらかといえば不満」の理由では、「つくば駅周辺のにぎわい」は21.3%と最も多く、次いで「公共交通」19.1%となっている。

(2) やりたいことができるまち

つくば市がやりたいことができるまちであるかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が5割半ばである。

地区別にみると、筑波地区、谷田部地区、荃崎地区以外では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が50%を超えている。一方、大穂地区では「どちらかといえばそう思わない/そう思わない」の割合が25.0%で最も多く、次いで荃崎地区が24.1%となっている。

(3) 紹介したいところ・自慢したいところ

紹介したいつくば市の魅力については、「科学(研究学園都市、研究機関の見学施設など)」が37.1%で最も多く、「自然(筑波山、宝篋山、牛久沼など)」が36.0%、「つくばエクスプレス」が24.8%と続いている。

(4) 市政

市政に市民が参加できる環境が整っているかについては、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が3割半ばである。

また、市政に対する意見を市に伝えたことがあるかについては、「市に伝えたい意見がない」が36.0%で最も多く、「市が実施したアンケートの回答」が19.9%、「区会・自治会を經由した意見表明」が9.7%で続いている。

さらに、市政に市民の声が活かされているかについては、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が3割を超えている。

4 少子高齢化への取組について

(1) 子育て環境

安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が6割近くになっている。

子育ての環境として充実していると思うものについては、「子育て世帯への経済的支援」が35.1%と最も多く、次いで「保育施設」が26.2%、「放課後児童クラブ」が24.3%となっていた。不足していると思うものについては、「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が27.5%と最も多く、次いで「一時預かり・夜間・休日・病児の保育」が25.4%、「保育施設」が22.3%となっている。

(2) 高齢者の生活環境

高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が3割半ばとなっている。

高齢者の生活環境について充実していると思うものについては、「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が25.2%で最も多く、次いで「健康づくりや介護予防事業」が21.9%となっていた。不足していると思うものについては、「日常生活支援(移動・送迎、買い物等)」が28.7%で最も多く、次いで「在宅で介護する家族への支援」が17.1%となっていた。

5 防災対策・防犯活動について

(1) 防災対策・防犯活動

防災対策として実施しているものは、「防災用品や食料・水の備蓄」が67.7%で最も多く、「タンスやテレビ、電子レンジの転倒（落下）防止措置」が40.0%と続いている。

防犯活動への参加については、「参加していない」が86.1%で最も多くなっている。参加しない理由として、「組織があるかわからない」が39.3%で最も多く、次いで「時間がない」が23.6%、「わからない」が12.9%で続いている。（図3）

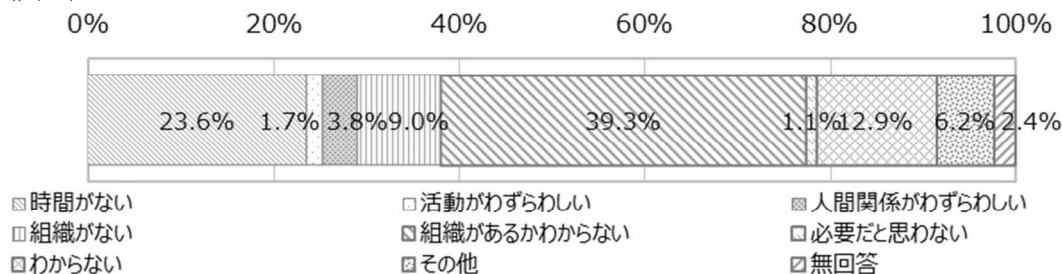


図3 防犯活動に参加しない理由

6 交通環境について

(1) 日常利用する交通手段

日常利用する交通手段は、「自家用車」が89.1%で最も多く、「鉄道」「自転車」が24.0%、となっている。

(2) 歩行者と自転車と自動車の共生

歩行者と自転車と自動車が共に安全で快適に通行できているかについては、「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせた割合が5割半ばになっている。

(3) 望ましい交通環境

つくば市の望ましい交通環境については、「公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち」が53.7%で最も多く、「自動車がスムーズに走行できるまち」が18.0%、「安心・便利に歩くことができるまち」が13.8%となっている。（図4）

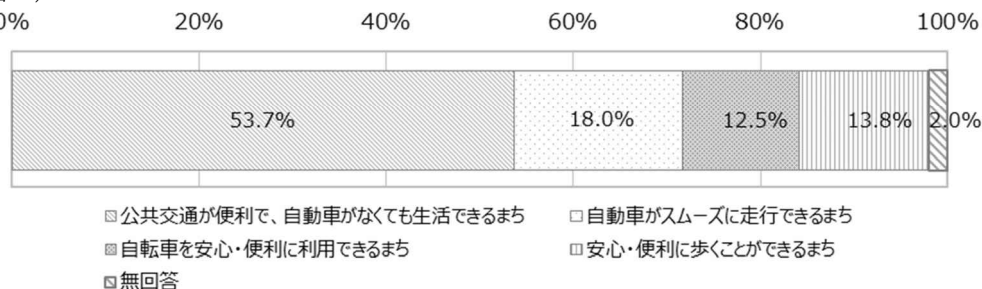


図4 望ましい交通環境

7 運動習慣について

(1) 運動頻度

この一年間の運動やスポーツの頻度については、「週に1日以上」の割合が5割半ばとなっている。年齢別にみると、10歳代、70歳以上では「週に3日以上」の割合が40%を超えている。

8 つくば駅周辺地区の活性化について

(1) つくばセンター地区（つくば駅周辺）への来訪頻度

つくばセンター地区（つくば駅周辺）を訪れる頻度については、「年数回程度」が31.2%で最も多く、「月1、2回程度」が30.3%、「まったく訪れない」が13.6%、「週1回程度」が11.2%で続いている。

つくばセンターを訪れる主な目的は「日常の用事」が52.4%で最も多く、次いで「移動・乗り換え」が15.9%となっている。

(2) つくばセンター地区の活性化に必要な取組

にぎわいのあるつくばセンター地区にするために必要な取組については、「商業施設の誘致」が53.5%で最も多く、「オープンカフェや朝市の設置」が34.8%、「駐車場の拡充」が31.7%で続いている。

9 科学のまちについて

(1) 「科学のまち」による恩恵

つくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じるかについては、「あまりない」と「ない」を合わせた割合が約5割となっている。(図5)

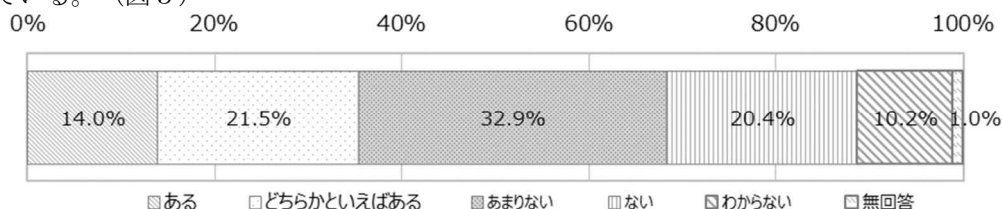


図5 「科学のまち」による恩恵

(2) 先端的な製品・サービス

先端的な製品・サービスが暮らしの中に活かされていると思うかについては、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が約6割となっている。

10 国際都市つくばについて

(1) 国際都市

つくば市が国際都市として取り組むべきことについては、「学校での国際理解教育」が37.6%で最も多く、「外国人と交流する機会の提供」が37.5%、「世界に向けたつくば市の魅力の発信」が26.9%、「相談・交流拠点整備等による外国人市民への生活支援」が24.6%で続いている。

11 SDGs※(持続可能な開発目標)について

(1) SDGsの認知度

SDGsに関する認知度については、「少し知っている」が35.1%で最も多く、「まったく知らない(今回の調査で初めて知った)」が25.5%、「名前だけは知っている」が22.8%と続いている。(図6)年齢別にみると、「よく知っている」「少し知っている」の割合が20歳代で最も多くなっている。

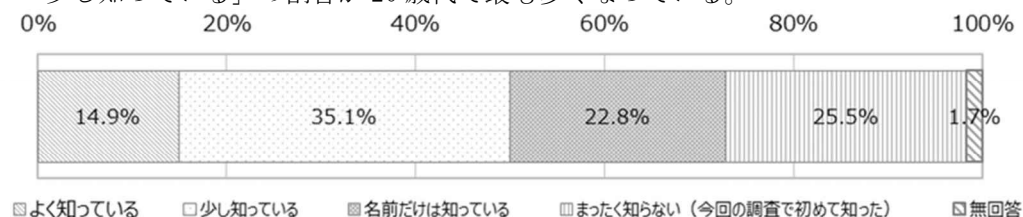


図6 SDGsの認知度

(2) SDGsや持続可能都市に関することで関心が高いもの

SDGsや持続可能都市に関することで、関心が高いものは、「食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負荷の低減」が53.6%で最も多く、次いで「子どもを中心とした貧困の解消」が42.4%、「地産地消の推進による地元農業の推進と環境負荷の低減」が38.8%となっている。

※ SDGsとは

Sustainable Development Goalsの略。2015年の国連サミットで採択された2030年までに達成するための「持続可能な開発目標」です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。つくば市は、SDGsの理念を「持続可能都市ビジョン」として反映し、取組を進めています。

12 幸福度について

(1) 幸福度

幸福度については、10点中「8点」が22.9%で最も多く、次いで「7点」が19.4%、「5点」が14.3%、「6点」が12.3%と続いている。

幸福度を判断する際に特に重視することについては、「健康状況」が73.3%で最も多く、次いで「家族関係」が48.7%、「家計の状況」が43.2%となっている。

(2) 心配ごとや困っていること

心配事や困っていることについては、「老後のこと」が48.5%で最も多く、次いで「健康のこと」が39.6%、「お金のこと」が38.7%となっている。年齢別にみると、10歳代から30歳代では「お金のこと」、40歳代から60歳代では「老後のこと」、70歳以上では「健康のこと」が最も多くなっている。